

長野県

農福連携全国都道府県
ネットワーク

農と福のコラボレーション

ノウフク

NOUGYOU FUKUSHI

農福
連携
とは？

「農福連携」とは、農業と福祉が連携し、障がい者の農業分野での活躍を通じて、農業経営の発展とともに、障がい者の自信や生きがいを創出し、社会参画を実現していく取組です。

この取組によって、障がい者の働く場の確保や賃金・工賃の向上に加え、担い手不足や高齢化が進む農業分野において、新たな働き手の確保や生産の拡大にもつながることが期待されています。

なぜ農福連携が必要なの？

しあわせ信州
「ノウフク」
プロジェクト事業

うれしい、おいしい、みんなしあわせ信州

～ともに育てる、日本の未来を耕す農福連携～



長野県PRキャラクター
「アルクマ」
©長野県アルクマ

何故、農業と福祉を
連携させるのか？

「共生社会」を
どう実現するのか？

農福連携が持つ「社会的意義」

「食を通じた価値の共有」

「うれしい」
気持ち

「おいしい」
体験

「しあわせ」な
つながり

農と福の連携は
「支援」ではなく
「共に生きる」取組

長野県が農福連携を推し進めていくための3つのキーメッセージ

うれしい

農家にとっての
「作り続けられてよかった」

多様な方々が共に働くことで、農業の現場に新たな力と温かいつながりが生まれます。人手不足の解消だけでなく、信頼関係が築かれます。

おいしい

みんなにとっての
「また、買いたい」

農福連携から生まれた農産物は、背景にある想いや努力が詰まった“物語のある食べ物”。食卓に笑顔と共生の心を届けてくれます。生産者と消費者が食を通じてこの取組に参加し、共生社会の一員となることができます。

障がいのある方にとっての
「働いて、感謝されてよかった」

うれしい

自然の中で体を動かし、作物を育てる体験は、達成感と自己肯定感を育みます。「認められた」という実感が、社会とのつながりを深めてくれます。

「支援」
から
「共生」
へ

農福連携は、農業という生産活動を通じて、農業や農村の担い手と、障がい者や高齢者、生きづらさを抱えている人たちが、「支える側」と「支えられる側」という従来の関係性を超え、地域で共生する社会の実現を目指します。